

～あなたはこのまちに、こんな優しさがあることをご存知ですか？～

学校から帰ってきた子どもたちを、「おかえり」と迎える場所があります。宿題をしたり、友達と遊んだり、ときには悩みを打ち明けたり。そんな放課後の時間を支えているのが放課後児童支援員です。今回は、20年にやり子どもたちに寄り添い続けてきた放課後児童支援員の成田恵子さんと南田江里子さんにお話を伺いました。

～留守家庭児童会編～
(学童保育)

ちょっといいまち
の
ちょっといいひと

「ちょっといいが
そこにある」
羽曳野

「おかえり」がつなぐ、優しさのバトン

放課後の数時間。

その時間の積み重ねが、子どもたちの安心につながっています。

子どもたちとの出会いが、

人生の仕事になった

Q. お二人が支援員になったきっかけを教えてください。

成田さん：

「もともとは専業主婦でした。子どもにバレーボールを教えるボランティアを始めたのがきっかけです。子どもたちと過ごす時間が楽しくて、気づけば20年経っていました。」

南田さん：

「私は大学卒業後、幼稚園教諭を目指していました。ご縁があって学童の世界に入り、結婚や出産、自分自身の子育ても経験しながら働いてきました。ここは私自身を育ててくれた場所でもあります。」

子どもたちが安心して帰ってこられる場所に

Q. 日々、どんな思いで子どもたちを迎えていますか。

南田さん：

「学校で頑張って帰ってくる子どもたちにとって、ここがホッとできる居場所であってほしいと思っています。表情を見て、『今日は疲れているな』『何かあったのかな』と感じる時は、まず軽くハグをして心をリセットしてあげることもあります。」

成田さん：

「私は言葉の力を大切にしています。『また明日ね』『待ってるよ』という何気ないひと言でも、子どもたちはうれしそうな顔をしてくれます。その温かさは保護者の方にも伝わっていくんです。」



放課後児童支援員
成田 恵子さん (右)
南田 江里子さん (左)



半年かけて生まれた、 小さな奇跡

Q. 20年間で印象に残っている出来事がありますか。

成田さん：

「人との関わりが苦手で、なかなか友達の輪に入れない子がいました。焦らず寄り添い続けた結果、半年後には友達と一緒に本を読んで笑い合っていたんです。その姿を見たときは胸がいっぱいになりました。」

— 子どもの成長は一直線ではありません。だからこそ、小さな変化や一歩前進が、何よりの喜びになるといいます。

南田さん：

「私たちが見ているのは子どもだけではありません。忙しい保護者の方に、『今日はこんなことを頑張っていましたよ』とお伝えすることも大切な役目です。」

— 仕事や家事に追われる毎日。そんな中で、わが子の成長を伝えてもらう一言が、保護者の心を少し軽くすることもあります。

「学校の先生でも親でもない。だからこそできる関わり方があると思っています。」

— その言葉には、20年の経験がにじみでていました。



優しさのバトンが続いていく

Q. お二人にとって、この仕事のやりがいとは何でしょうか。

成田さん：

「卒業した子が大人になって遊びに来てくれることもあります。社会人になった報告をしてくれたり。そんな姿を見ると、本当に続けてきて良かったと思います。」

— 少し考えてから、成田さんはこんな言葉を続けました。

「私が親からもらった愛情を子どもたちに注ぐ。そして、その子たちが大人になって、また誰かに優しさを渡していく。そんな『優しさのバトン』を感じられることが、この仕事の一番の魅力かもしれません。」

南田さん：

「1年生の頃は何もできなかった子が、卒業する頃には立派に成長している。その姿を間近で見られることがこの仕事ならではの喜びです。」

— 放課後の子どもたちを見守る仕事は、決して特別な資格や経験だけで成り立つものではありません。大切なのは、子どもたちの成長を喜び、一人ひとりに寄り添う気持ち。「子どもたちの笑顔から、私たち自身もたくさんの学びと成長をもらっています。」
そう話すお二人の表情は、とても穏やかで優しさに満ちていました。

優しさのバトンを受け継ぐ仕事 一緒に働いてみませんか？



【放課後児童支援員・補助員の募集】

- 勤務内容：留守家庭児童会入会児童（小学1～6年生まで）への支援
- 勤務日時：週5日（月2回程度の土曜日）
（平日 12:45～17:45 学校休業日等 8:30～17:15）

【放課後児童支援員の補助員（スポット勤務）の募集】

- 勤務内容：留守家庭児童会入会児童（小学1～6年生まで）への支援の補助
- 勤務日時：シフト制
（平日 12:45～17:45 学校休業日等 8:30～17:15）

【問合せ】次世代育成課

